

東京大学大学院人文社会系研究科
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣
帰国報告書

2013年1月18日

東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻文化経営学専門分野修士課程
岡村万里絵

1. 渡航概要

1-1. 派遣生基本情報

渡航者：岡村万里絵（文化資源学研究専攻文化経営学専門分野修士課程1年）

派遣カテゴリー：次世代人文社会学育成プログラム平成24年度夏個人派遣

主な派遣先：Centre National d'Art et de Culture - Georges Pompidou（Place Georges Pompidou,
75004 Paris, France）

1-2. 派遣期間

2012年11月6日-2013年1月7日（63日）

1-3. 滞在先

宿泊先：24, Rue de L'annonciation 75016 Paris, France

アパート賃貸（賃貸期間：2012年11月6日-2013年1月6日）

2. 研究テーマ

2-1. 研究題目

日本語：現代芸術の価値形成-ポンピドゥー・センターを中心に

派遣先の公用語訳：Instituer la valeur de l'art contemporain: au cas du Centre Pompidou

2-2. 研究概要

美術作品を芸術として成立させるのは、予め存在する絶対的基準ではなく、その評価・展示・教育・普及を担うシステムであるという前提の下、私の関心は主に、芸術として帰趨の未だ定まらない現代芸術の価値形成が美術機構のメカニズムの下でどの様に行われるのか、という点にある。本研究は、フランスの文化的威信回復の輿望を担い1977年に開館したポンピドゥー・センターの活動を、コレクションや展示内容から分析しその傾向を明らかにすると共に、それらの活動によって提示された価値が批評家や公衆あるいは市場などの目にさらされる過程を通じてどの様に社会の中で受け止められているのかを考察する事を目的とする。

3. 主な研究成果

3-1. 当初の研究計画

研究初期段階における調査として、上記の問題意識を論文に結実させるための「具体的な対象あるいは事象の絞り込みと調査」と「芸術の価値形成についての立証方法の検討」の2点に主に取り組む。主な方法は以下の通りである。

- 資料収集（Bibliothèque Kandinsky, Centre de Documentation et de Recherche du Mnam/Cci等）
- インタビュー（ポンピドゥー・センター学芸課・企画担当者、文化プロジェクト関係者、美術館関係者、文化施設関係者、大学教授、アーティスト等）

- 文化施設・イベント視察（Centre Pompidou, Centre Pompidou-Metz, le Plateau, Palais de Tokyo, その他、財団所有のギャラリーやオルタナティブスペース等）
- アートフェア・マーケット視察（Paris Photo 並びにその OFF、コマーシャルギャラリーやオークション等）
- シンポジウムへの参加（GRSCO 国際シンポジウムやルーヴル学院シンポジウム等）

3-2. 実際に達成された成果

現地で得られた新たな情報・インタビュー先などを交えて、上記の調査を行った。

1) 「具体的な対象あるいは事象の絞り込みと調査」について

多様なアクターの性格、役割、分布についてマッピングを行い、それらの関連性の存在を確認する事が出来た。現状の多層性を鑑みると、ポンピドゥー・センターを起点としつつも、そこに閉じこもった考察は時代に則していないと思われる。また、インタビューやヒアリングを通じて、ポンピドゥー・センター関係者とその他の芸術界関係者においては、センターの現代美術界における役割と寄与について認識にズレがある事が明らかとなったが、その点についても分析を行いたい。従って、現代美術と市場の密な関係と、企画展示における他の文化施設との協働と競争に焦点を当てるため、対象をマルセル・デュシャン賞と Espace315 に絞り、価値形成における美術館の役割を相対的に検証する方向で定める。

2) 「芸術の価値形成についての立証方法の検討」について

シンポジウム参加・資料収集等を通じて、批評の芸術界に占めるウェイトの減少、現場での調査やヒアリングを通じて価値自体の多様化が明らかとなった。また、芸術家における発表機会と市場における価格上昇等、各アクターにおいて価値の判断基準も異なる事が確認出来た。同時に、市場を中心としたある種のトレンド（モードよりも長期的）の形成と、信用性に関する現代美術市場に特有の性質が確認出来た。全体の様相の整理を行った上で、後者に注目する事を検討したい。

3) その他

またこれらの当初の研究計画に加えて、所属研究会の関心である「文化でまちづくり」に関連する以下の調査を行った。

- ルーヴル・ランスとポンピドゥー・メッスの地域における位置付けに関する比較調査、及び関連シンポジウムへの参加
- パブリックコマンドやパブリックアートに関する調査及び講演会への参加
- 自治体の提供する文化サービスに関する調査
- 手段としての現代芸術の活用に関する調査・インタビュー

4. 今後の研究展望

今回の調査において確認する事の出来たフランスの現代美術界の様相は、当初の想定以上の多様化・多層化を示していた。その中で見えたアクター間の協働と競合、あるいはお互いに対する認識のズレは、本研究における重要なテーマとして分析の余地があると考えられる。今後行いたいと考えている日本芸術界との比較分析を視野に入れつつ、今回の調査を通じて得られた観点と課題を軸に現代美術界の在り方と、フランス現代美術界の特徴の一端を解明していきたい。